

知恩

第二号

慰霊法要の日を迎えて

会長 大森信英

本・恩光碑保存会役員の野沢汎氏は其の著書「後裔が見た、水戸藩騒動の事実」のあとがきの中で、「私の父はかねて自分の祖先の歴史と、その経緯について調査・研究を重ねていた。我が先祖は下級武士ながら正統な水戸藩士なのに、解明できないのは何故だろう。それは、わが家が諸生派家族のレッテルを貼られたからだ。明治維新から天狗党は我が世の春を謳歌したが、反対に諸生派は「除族集録」され、子孫は明治22年憲法発布の大赦令が出るまで、世の中に遠慮しながら暮らしていた。諸生派の記録・資料は焼却されたか死蔵され、容易に知り得なかった。」と記しているが、これは一人、野沢氏のみでなく、本日まで参加されたすべてのの方々の思いであろうと推測するのである。

毎年、水戸市では黄門祭りが行わ

れているが、その出し物の中に、「追い鳥狩り」の行列がある。その

行列の従者の旗指し物を見ると、総てが天狗派の人々の指し物で、

諸生派の指し物は全く見られない。この「追い鳥狩り」の行われた時代

には、まだ、天狗・諸生と云うような派閥は無かった時代であるので、

この行列を企画した関係者はそのような事実を知っているであろうか

疑いたくなるのである。いくらお祭りだからと云っても、水戸市民だけでなく、他の地方の方々も見にくる

のであるから、もう少し史実に忠実であつても良いであろうと思う。

さきに述べたように、今時大戦を経て、諸生派の子孫はやつと平穏な

日々を送ることが出来るようになり、祖先の霊魂を祭れる日を迎える事が

出来たのである。

「追鳥狩」とは水戸藩では狩猟の

たちをとった軍事訓練・演習の意味を兼ねていました。



平成19年 夏・撮影
水戸城 大手橋



水戸城二の丸 三階櫓
古写真
昭和20年8月2日 空襲にて消失



弘道館 正庁



平成19年 夏・撮影
弘道館 正門

水戸藩国事殉難者慰霊法要・

挙行について 恩光碑保存会

二〇〇七年(平成19年)9月22日、秋の彼岸とは言え、暑い日が続いていました。

本日、水戸殉難者恩光碑保存会を設立後、第一回の「水戸藩国事殉難者慰霊法要」を、水戸黄門様「徳川光圀公」ゆかりの祇園寺において、境内に建立された「恩光無辺碑」の碑前に、ご来賓の方々ご参列のもと、子孫関係者一同参列し厳粛に慰霊法要の式典を執り行いました。

この日、ご来賓として、次の方々のご参列を頂きました。

- 衆議院議員 赤城徳彦様
 - 参議院議員 岡田 広様
 - 茨城プレスセンター株式会社
社長 市村眞一様
 - 幕末維新水戸有志を偲ぶ会
事務局長 川上 清様
 - 日立歴史研究会
会長 小浜一雄様
 - 理事 池田貞雄様
- お忙しい所をご参列頂き厚く御礼申し上げます。
- 尚、水戸市長 加藤浩一様より、又、岡田広様より、丁重なる電文のメッセージを頂きましたので、披露させて頂きました。

法要は次のとおり執り行いました。
総合司会 朝比奈泰仁・実行委員
法要式典の部

- 1 開式 正午
- 2 読経 小原宜弘住職
- 3 追悼文朗読 大森信英会長
- 4 会長焼香
- 5 来賓焼香
- 6 会員焼香
- 7 電文披露
- 8 読経
- 9 閉式
- 10 式典終了後
- 11 記念写真撮影「本堂前に於いて」
- 12 次に寺院客殿・大広間に於いて
- 13 設齋「会食と懇親」の部
- 14 1 開会のことば 蔭山副会長
- 15 2 会長挨拶
- 16 3 住職挨拶
- 17 4 来賓紹介
- 18 5 来賓代表挨拶 岡田広様
川上清様
- 19 6 会食
- 20 7 市村眞一様紹介朝比奈副会長
- 21 8 市村眞一様講話
- 22 「市川勢の軌跡」について及び
各地訪問取材エピソード等
- 23 9 懇親・交流のひとつ
- 24 10 自由スピーチ
- 25 閉会のことば 朝比奈副会長
- 26 午後2時 終了

このようにして、念願の諸生派国事殉難者の慰霊法要を執り行うことが出来ました。
改めて殉難諸士のご冥福をお祈り申し上げます。

又、会員各位のご協力、法要実行委員の皆様のご尽力、祇園寺の皆様のご協力により、水戸殉難者恩光碑保存会設立後、第1回の法要を終了することが出来ました。有難うございました。厚く御礼申し上げます。

平成19年9月22日祇園寺にて
法要参列記念



法要実行委員会の皆さん



恩光無辺碑前 法要式典



平成19年9月22日・祇園寺の
法要式典において朗読しました
追悼文

本日、ここに、水戸藩国難事件殉難者慰霊法要を挙行するに当たり、第二代水戸藩主・徳川光圀公開基の祇園寺境内に建立された「恩光無辺碑」の前に、ご来賓の皆様、列席のもと、子孫関係者一同、碑前に会して、殉難者の御霊に謹んで申し上げます。

まず「恩光無辺碑」の碑文を申し上げます。

「明治戊辰 徳川宗家の衰廢を悲しみ 慷慨 難に赴く者 水戸藩士 数百人を下らず 皇恩洪大 宗家の後に録す 遺靈また以て瞑すべし 茲に其の姓名を挙げ 碑背に録す也」

篆額は、室田義文翁の書であり、碑文は朝比奈知泉の撰であります。

幕末維新の激動期に、国の行く末を憂い、国事に奔走しながら、一途に尊皇敬幕に走り、不慮の死を遂げ、屍を各地の山野にさらし、多くの有為の人材が散華された事は、誠に残念の極みであります。党派を別にし、其の主義は異なるも、君に対する忠誠心に於いては少しも異なる所は無いと、室田義文翁のお言葉の通り、私達も信ずるものであります。

元治元年、筑波山事件以来、百四十二年、「恩光無辺碑」建立以来七十余年、本日、ここに、往事を偲び、改めて、各地に散華した人々に思いを致し、この先祖代々の地・水戸に於いて、子孫一同、碑前に会して、鎮魂慰霊の誠を捧げるものであります。

なお、幕末騒乱に際し、不幸にして散華した人々の偉業に光をあて、顕彰し、この歴史の真実を風化させることなく、末長く後世に伝える所存であります。」

次の辞世の歌は、この不幸な出来事を象徴しているように思えてなりませんので、特に、申し上げたいと存じます

君ゆへに すつる命は おしまねど
忠が不忠になるぞ かなしき

事、志と異なると雖も、御霊の安らかならん事をお祈り申し上げます

平成十九年九月二十二日

参列者を代表して

大森信英



恩光無辺碑



平成19年9月22日 祇園寺
第1部 碑前・法要式典
大森信英会長 追悼文朗読



祇園寺



第2部 設齋・懇親会
来賓ご挨拶 岡田広様

八日市場 諸生派壊滅の地

弔魂碑 碑文(原文漢文)

朝比奈知泉先生 撰文

水戸藩志士弔魂碑

松山中台村 徳川氏の時幕府直轄に属す。旗下の土中野定之助之を宰す。明治維新 府藩県制を設け、幕領に府県を置く。両村合わせて宮谷県と為る。柴山文平県令に任じられ、里正の称は、名主を組長に改む。大木三右衛門中台組長に任じ、下山九兵衛松山組長に任ぜらる。佐助翁は、即ち三右衛門の嗣子なり。この時、奥羽未だ平定せず。水戸藩党争余焰なお熾なり。

朝比奈泰尚その嗣子泰彙 寛政布その嗣子政常 及び市川弘美等諸生党を率い、明治元年三月 水戸を発し、佐幕諸藩とともに越後、会津を転戦、九月水戸へ帰り、貞芳夫人に頼み、情を訴えんと欲するも果たさず。城門外弘道館に抛り、健闘乱撃遂に敗退す。時に十月一日なり。泰尚残卒を率い、銚子より八日市場に出、六日朝中台に向かう。天狗党多古街道を進み、松山台に至る。両軍接戦 互いに砲火を交え 巳(四時、午前十時)より午(九時、正午)に至る。一は衆を待み、専ら火器に頼る。一は死を決し、弾濁、大呼短兵を追闘するも応ぜず。飛丸

雨

弔魂碑 碑文(原文漢文)

朝比奈知泉先生 撰文

至る。一は衆を待み、専ら火器に頼る。一は死を決し、弾濁、雨の如く諸生党軍遂に全滅す。戦没者二十五人氏名を左に録す。

戦没者二十五人氏名を左に録す。の如く諸生党軍遂に全滅す。遺屍二十五、其の一首級無し。戦

い熄んで後、柴山県令両村吏民に命じ、用水渠を傾洒し遍く搜索するも、遂に獲ることを得ず。大木、下山両組長及び中台村長山崎八郎兵衛、中台仁右衛門、松山村長古閑佐兵衛、関忠兵衛等相い謀り、戦没二十五人遺骸を改め、之を葬り、碑を建てて祀る。歳時香火絶えず、以後、今日に至る。

大正十四年四月、予、家兄及び弟金三郎と、始めて戦跡に至る。大木佐助翁 予等兄弟を導き、邸園を指し、詳らかに当年の状景を説く、其の説明によつて宗家父子の為を知る。その首無き者は蓋し寛政布、以つてその死分明なるも、其の首級水戸に至るを伝えず。このごろ。両村有志相い謀り弔碑を建てんとし、予に之を記するを求む。予、不敏にして何を以つて之に当たる、顧みるに、予また朝氏の一塊肉なり。生父、伯父、叔父と従兄皆国難に斃

る。今、翁に頼りて、一門奮闘、宗家陣没の跡を審らかにしたり。翁古希を跋ゆるも、豊饒強記いづくんぞよく此に至る。予、不安を以つて敢えて辞するを得ざるなり。

(註) 貞芳夫人は徳川斉昭公夫人朝氏は朝比奈氏

戦没者二十五人氏名を左に録す。

家老 朝比奈弥太郎泰尚
小姓頭 朝比奈朝負泰彙
家老 寛助太夫政布

同心頭 佐藤主税
佐藤貞之助

町奉行 富田理助
生井松次郎

中間頭 橋本小三郎
譜代同心 丹下斉蔵

徒士 大久保貞蔵
大高孫兵衛

徒士 山田惣次郎
友部徳之介

徒士頭 綿引隆三郎
春山崇七

大番頭 鈴木欽一郎
佐藤留男

小十人目付 大嶺総七郎
河合子之吉

徒士目付 上 彦四郎
小山金平

(ほか従者四人)
「朝比奈知泉文集」

(大正15年11月9日 いはらき)

(註)

千葉県八日市場市「現在・匠瑳市」松山に建立されている「脱走塚」には「戦士二十五人の墓」と刻んだ墓碑と弔魂碑が建てられている。

弔魂碑は右と同じ朝比奈知泉先生の撰文であるが、文面は右のものより簡略化されている。戦死者名は建碑寄付者氏名と共に碑陰に彫られている。建碑の日付けは、大正15年11月10日である。

なお、戦死者二十五人の墓となつて

いるが、碑陰には

大番組 斉藤新一郎
郷士 益子民部左衛門

郷士 益子寛介、28人の氏名が彫られている。

3人の氏名は後から追彫されたものであるうか。

尚、途中戦死者として

馬廻組 大森金六郎 墓碑が

銚子市 良福寺にあります。

(註) 役職名は紙面上加筆したものです。

平成19年9月22日・祇園寺の
法要式典において朗読しました
追悼文

本日、ここに、水戸藩国難事件殉
難者慰霊法要を挙行するに当たり、
第二代水戸藩主・徳川光圀公開基の
祇園寺境内に建立された「恩光無辺
碑」の前に、ご来賓の皆様ご列席の
もと、子孫関係者一同、碑前に会し
て、殉難者の御霊に謹んで申し上げ
ます。

まず「恩光無辺碑」の碑文を申し
上げます。

「明治戊辰 徳川宗家の衰廢を悲
しみ 慷慨 難に赴く者 水戸藩士
数百人を下らず 皇恩洪大 宗家の
也」後に録す 遺靈また以て瞑すべ
し 茲に其の姓名を挙げ 碑背に録
す也」

篆額は、室田義文翁の書であり、
碑文は朝比奈知泉の撰であります。

幕末維新の激動期に、国に行く末
を憂い、国事に奔走しながら、一途
に尊皇敬幕に走り、不慮の死を遂げ、
屍を各地の山野にさらし、多くの有
為の人材が散華された事は、誠に残
念の極みであります。党派を別にし、
其の主義は異なるも、君に対する忠
誠心に於いては少しも異なる所は無
いと、室田義文翁のお言葉の通り、
私達も信ずるものであります。

元治元年、筑波山事件以来、百四
十三年、「恩光無辺碑」建立依頼七十
余年、本日、ここに、往事を偲び、
改めて、各地に散華した人々に思い
を致し、この先祖代々の地・水戸に
於いて、子孫一同、碑前に会して、
鎮魂慰霊の誠を捧げるものでありま
す。

なお、幕末騒乱に際し、不幸にし
て散華した人々の偉業に光をあて、
顕彰し、この歴史の真実を風化させ
ることなく、末長く後世に伝える所
存であります。」

次の辞世の歌は、この不幸な出来
事を象徴しているように思えてなり
ませんので、特に、申し上げたいと
存じます

君ゆへに すつる命は おしまねど
忠が不忠になるぞ かなしき

事、志と異なると雖も、御霊の安
らかならん事をお祈り申し上げます

平成十九年九月二十二日

参列者を代表して

大森信英



平成19年 夏 撮影
恩光無辺碑



平成19年 9月22日 祇園寺
法要式典



平成19年 夏 撮影
祇園寺 本堂

編集後記

素人の作成ですが皆様に少しでもご理解頂けますよう「会報・知恩」作成に努力して参ります。

水戸殉難者恩光碑保存会

会報 知恩第2号

平成19年10月31日 発行

発行人 大森信英

編集責任者 前沢瑞穂

編集委員 清水光夫

々々 野沢 汎

々々 朝比奈光一

々々 川上有文

々々 綿引周一

編集印刷 事務局

恩光無辺碑建立の大恩人
室田義文翁について

水戸市教育委員会編集の「茨城の先達」よりの引用文であります。

